

ことわざ・慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたいことわざと慣用句を取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『腕に覚えがある』

意味：自分の技術や能力に自信がること。

ひとこと：「腕」は「腕前」のことで能力や技術の意味。「覚え」は自信の意味。

使い方：このことなら「腕に覚えがある」から任せてください。

『腕を上げる』

意味：技術や能力が上達すること。

ひとこと：「腕が上がる」とも言う。

使い方：最近父はゴルフの腕を上げてきた。

ことわざ

『一寸(いっすん)の虫にも五分(ごぶ)の魂』

意味：「どんなに小さくて弱いものにもそれなりの意地があるから軽く見てはいけない」の意味。

ひとこと：「一寸」は約三センチ、「五分」はその半分。

使い方：相手は体が小さいが「一寸の虫にも五分の魂だ」気を抜くな。

『命あつての物種(ものだね)』

意味：「なにごととも命があつてのことだから命を大切にしてください」の意味。

ひとこと：似たものに「命に過ぎたる宝なし」というのがある。「命より名を惜しめ」は反対の意味。

使い方：命あつての物種だから、そんな危険な仕事はやりたくない。